

NIFS-AP News VOL.3

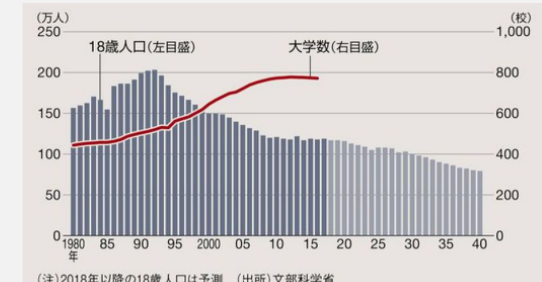
教員から体育大生へのメッセージ

スポーツ・武道及び体育・健康づくりの分野で、有為な人材となれ！

下図にあるように、大学生となる18歳人口は2018年以降、さらに減少傾向に転じます。このことは、本学をはじめ日本の大学のあり方・存在が大きく問われることを意味しています。具体的には、大学の統廃合が待ち構えています。

鹿屋体育大学の卒業生には、スポーツ・武道及び体育・健康づくりの各分野で活躍し、健康で豊かな社会をつくる有為な人材になることが期待されています。それは、日本で唯一の国立の4年制体育大学としての使命でもあります。そのために、本紙のP3にもある本学のディプロマポリシーに掲げている12の資質・能力を大学4年間で着実に身につけ、卒業してもらいたいと考えています。今回の紙面で取り上げている学修ポートフォリオは、そのような「学生の学び・成長・挑戦」を支援するものです。大学生は「生徒」でなく「学生」です。自ら学ぶことによって、新たな何かが生み出されてくると思います。

この大学4年間で、いかに主体的に行動できるかが社会に出て活躍するために大切なことになってきます。そのためには皆さんが、自らの課題を見つけて、挑戦し続ける大学生活を送っていただけることを期待しております。大学は皆さんの学び・成長・挑戦を全力でサポートします。



森 司朗 理事・副学長
(教務委員長)

自己の能力を鹿屋体育大学で開花させてください

体大生の皆さん、こんにちは。心理学系の授業を担当している中本浩揮(なかもとひろき)です。

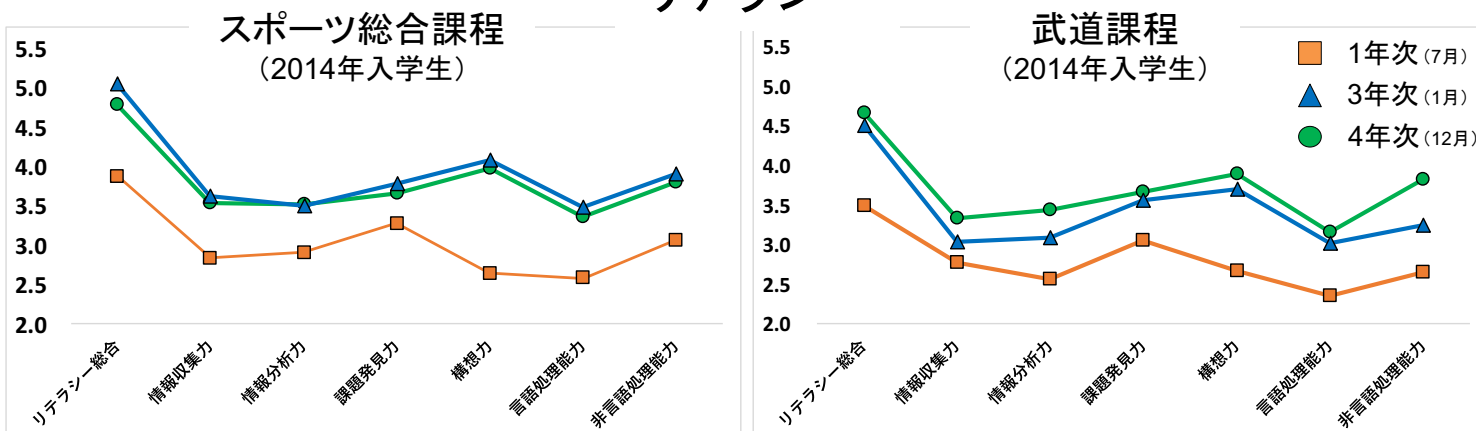
今回のAP通信から「教員から学生へのメッセージ」という欄が作られました。この企画は、教員が体大生の皆さんに期待することなどを伝えるものです。私が体大生に期待することは「自己の能力を伸ばす」能力を4年間で今以上に高めてほしいということです。私の体大生の印象は、目標を達成する方法を知っている優れた集団、です。おそらく、小さい頃からスポーツを通してその能力を身に付けてきたのだと思います。ただ、大学に入ってからその能力をほったらかしにしている人を見かけるのも事実です。

大人になればなるほど、様々なパフォーマンスの伸びしろは小さくなります。ただし、小さな伸びが大きな結果の差になるのも大人の世界です。心理学の研究では、伸びるためには、「よく考えられた練習」「根性(意志力)」「自分はまだ成長段階だと信じる心」が必要だとされています。「よく考えられた練習」は、このAP通信でよく書かれているPDCAを上手に行うことで達成されます。「根性」には、自分がやっていることに対する情熱や明確な目標、将来構想が必要です。「伸びることを信じる心」は、毎日の小さな変化に敏感になることで培われます。この3つは皆さんが伸びたときに必ずあったものだと思います。これを思い出しさらに自己の能力を伸ばしてください。



中本 浩揮 准教授

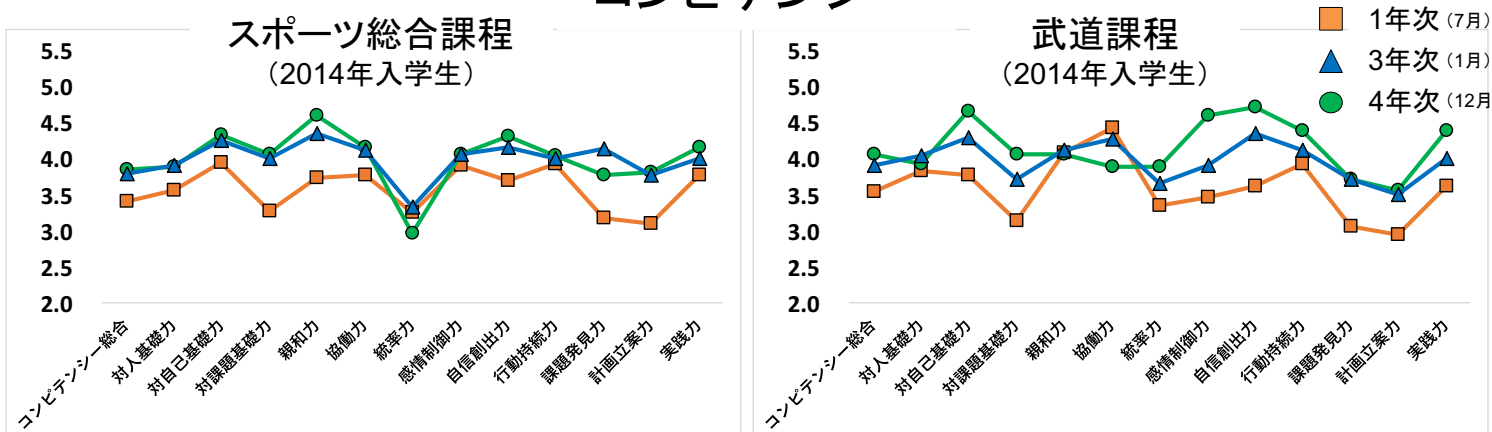
リテラシー



1年次から3年次にかけての成長が大きいようです。特に、構想力が伸びています。しかし、3年次から4年次にはあまり伸びがありません。

1年次から3・4年次と全ての項目で伸びています。特に構想力が伸びています。3年次から4年次にかけては、情報収集力、課題分析力、非言語処理能力が伸びています。

コンピテンシー



3年次と4年次はあまり変化はありませんが、1年次と比較すると3年次までにほとんどの項目でスコアが伸びています。しかし、統率力は、非常に低い傾向で伸びていません。

3年次、4年次とほとんどの項目でスコアが伸びています。しかし、親和力は変化がなく、協働力は学年が上がるごとに減少しています。

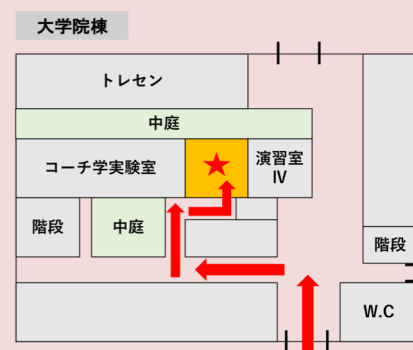
SCCOTおよびSCRIT開発協力の御礼

SCCOT(スポーツコーチングコンピテンシーテスト)およびSCRIT(スポーツコーチングリテラシーテスト)の開発にご協力いただきました皆さま、誠にありがとうございました。最終的には、SCCOTでは約1000名、SCRITでは約100名の方から回答いただきました。現在、回答を元にテストのブラッシュアップを進めています。広く活用されるスポーツ指導者の資質・能力を可視化できるテストの完成を目指します。

＜発行＞
鹿屋体育大学 教育企画・評価室

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
大学院棟1階
TEL&FAX: 0994-46-5082
E-MAIL: kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

＜企画・編集＞
濱中 良・近藤亮介・岡田あゆみ・金高宏文



教育企画・評価室のHPも更新されているのでご覧ください



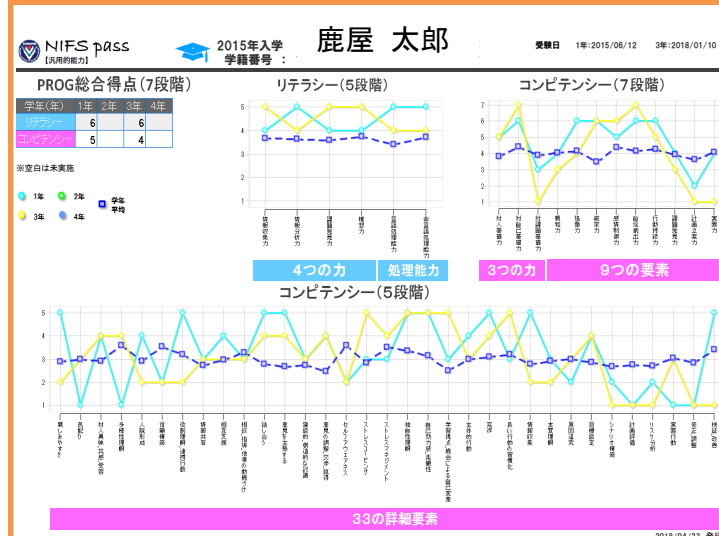
<http://ap.nifs-k.ac.jp>

PDCAサイクルを積極的に回そう！ Check → Act → Plan → Do

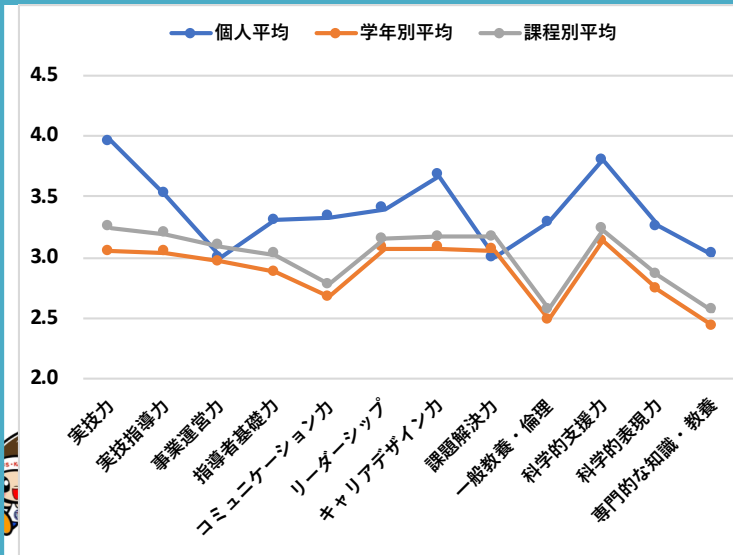
4年生の振り返り例

以下の振り返りは、実際に4年生が振り返りを行なった内容です。成績データを見て、よく振り返りができています。Q3では、具体的な改善について、もう少し詳しく(例：月に一回は自分の振り返り、計画を見つめ直す)書けると、次の改善につながりやすくなります。大学4年間の中で、計画を立てて(Plan)、行動し(Do)、振り返り(Check)、改善する(Act)、PDCAサイクルを習慣化させることは、社会に出てから必ず役立ちます。まずは、半期に一度は、しっかりと自分の大学生活を振り返ってみてください。

GPA



PROG



Q1. データを見て、あなたの強みや長所はなんだと思いますか(Check)

A: 情報収集力、課題発見力、構想力、対自己基礎力、自信創出力

A: 実技力と科学的支援力

Q2. 今後どんな資質や能力を伸ばしたり身につけたいと思いますか(Plan)

A: リテラシーでは、処理能力が低かったので身につけたい。コンピテンシーでは、対課題基礎力、計画立案力、実践力を身につけたい。

A: 将来、自立した自分で考えて行動が出来るようになるために対課題基礎力、計画立案力、実践力を身につけたい。

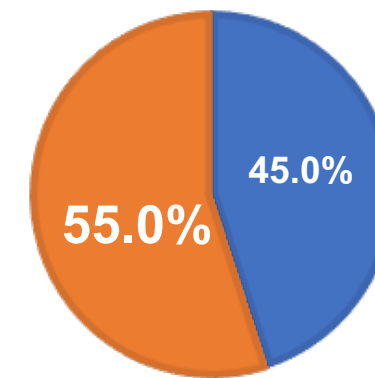
Q3. 具体的に、どんな手段や方法で改善を目指しますか(Act→Plan)

A: 何に対しても振り返りと、計画をすることがあまりなかったので、しっかりPDCAサイクルを競技、卒論、就活でやっていきたい。特に、ギリギリまで行動に移さないことが多いため、計画を前もって立て、早め早めの行動を心がける。

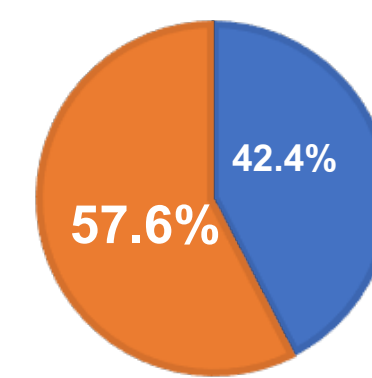
A: これから就活、卒論、競技とやることがたくさんあるので、しっかり自分のやりたいこと、やるべきことを考えて、計画を立てて、実践していく。また、何もしない時間を減らして、卒論や就活のための勉強時間を創るようにする。

まだの人は必ず振り返りを！！

GPA



PROG



はよ！WebClassで回答しなはれ～！

■ 回答済
■ 未回答

2018年5月8日現在



5/8(火)までの回答率は約45%です。まだ、振り返りができていない人は、必ず振り返りを行うようにしてください。

2017年度の振り返りは、WebClassのアンケート内でしています。今年度中にはWebClass内に、個人毎のレポートを残したり、学修を記録できるe-ポートフォリオシステムを導入する予定にしています。詳細は、次回のAPNewsで紹介します。

卒業までに身につけるべき12の資質・能力の定義

DPで目指す資質・能力	解説
専門的な知識・教養	スポーツ等の指導者やリーダーに求められる基礎的・応用的な知識ならびに幅広い教養のこと。
科学的支援力	アスリートへの科学的サポート、生涯スポーツにおける健康科学的サポートを行うことができる仮説・企画力、実験・調査力、分析・考察力、説明力を総合した資質・能力のこと。
科学的表現力	スポーツ等の専門的な知識・教養を総合的に活用し、論理的にレポート・論文等を作成できるとともに、他者に伝えるように表現できる資質・能力のこと。
実技力	スポーツ、武道、健康づくりの運動等を自ら学び、その習得・改善過程を理解しながら目指すパフォーマンスを達成することができる(模範できる、身体表現できる)資質・能力のこと。
実技指導力	スポーツ等の指導を行うことができる示範力、評価力、処方力、コーチング力等を総合した資質・能力のこと。
事業運営力	市民の健康・体力づくり等をコーディネートし、スポーツクラブ等の事業運営やプログラム開発を行うことができるプログラム等開発力、プログラム等運営力、事業コーディネート力、組織・施設マネジメント力を総合した資質・能力のこと。
指導者基礎力	指導をする相手(プレーヤー)の意思を尊重しながらも、プレーヤーの人間性・関係性・有能さ・自信を育てる指導をするための基礎的な資質・能力のこと。
課題解決力	本質的な問題を発見し、解決策を考え、計画し、それを実行、成果がでるまでPDCA サイクルを円滑に回し、課題解決に向けた取り組みを実施できる資質・能力のこと。
コミュニケーション力	「一方的に意思を伝達する」だけでなく、異なる意見や感性を持つ人々と交わり、耳を傾け、柔軟に自らの意見を変容させる「対話をする」資質・能力のこと。また、英語でのコミュニケーション力も含む。
リーダーシップ	集団に何らかの目標を設定し、集団を統率しつつ、人々の意欲を高め、成長させながら、その課題を遂行・先導する資質・能力のこと。
一般教養・倫理	社会で必要とされ、身につけていることが望ましい基本的な知識や物事の良し悪しを判断し、人として守るべき秩序を守れる資質・能力のこと。
キャリアデザイン力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく資質・能力のこと。